

■ゲノム編集技術応用食品の表示について（消費者庁発表 R 元、9. 19）

消費者庁は、9月19日に、狙った遺伝子を壊して変異を起こす手法の場合は表示を義務化しないと発表しました。

なお、外部から遺伝子を挿入する手法の場合は従来どおり、安全性審査と表示が義務付けられています。

（ゲノム編集技術応用食品の表示の考え方：
https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/quality/genome/pdf/genome_190919_0001.pdf）

（ゲノム編集技術応用食品に係る Q & A の表示について：
https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_labeling_act/pdf/food_labeling_act_190919_0011.pdf）

（参考：ゲノム編集技術とは、消費者庁意見交換会資料：
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/risk_commu_2019_001/pdf/risk_commu_2019_001_190726_0001.pdf）